

ツーリスト・マイレージの試算

—距離的要素を考慮したインバウンド観光の評価—

観光大国というとフランス、イタリア、スイス等が思い浮かぶ。「何をもって観光大国とするか」という時、インバウンド旅行者数の多さや国際旅行収支の大きさを指標として論じられることが一般的である。しかし、距離的要素を含まないこれらの指標では、ヨーロッパ大陸のように限られた地域に高所得国が数多く存在する地域が有利だといえる。また、香港～マカオ間のように60km弱の移動距離でも国際観光客としてカウントされると、日本のような島国は、ある意味で統計上のハンディを背負っていることとなり、インバウンド観光の現状が過小評価されている可能性がある。そこで本論では、距離的要素を加味して主要国のインバウンド観光を再評価することを試みた。具体的にはインバウンド・ツーリスト・マイレージの試算である。ツーリスト・マイレージとは、旅行者数に移動距離を乗じた数値のことで、[輸送人・km] という単位で表される。またこのツーリスト・マイレージを旅行者数で除した平均移動距離は、その国の誘致力を示す指標といえる。旅行者数、ツーリスト・マイレージ、平均移動距離という3指標によって各国のインバウンド観光特性を従来よりも公平に評価することができる。

●長谷川明弘

本編『ツーリスト・マイレージの試算』

—距離的要素を考慮したインバウンド観光の評価—

目次 ◆◆◆◆

第1章 研究目的と分析方法

1. 問題意識
2. ツーリスト・マイレージ
3. 分析の前提条件
4. 二国間距離とインバウンド旅行者数

第2章 インバウンド観光3指標による国際比較

1. 分析対象39カ国の順位
2. 仏米豪の比較

第3章 我が国のツーリスト・マイレージ

1. 日本のインバウンド観光3指標
2. 日英の比較
3. 日本のポジショニング

第4章 結論

1. 研究目的と分析方法

1 問題意識

我が国ではアウトバウンド観光とインバウンド観光とのバランスが悪く、インバウンド観光の振興が課題とされている。しかし、多くの国々と国境を接している欧州各国などと異なり、極東の島国という我が国の立地条件を考えれば、年間400～500万人の外国人旅行者が訪れているという現状はもっと高く評価されてもいいのではないかと。

国際観光統計では、60km程度の移動しか伴わない香港～マカオ間の観光客も、18,000kmの移動を伴うオーストラリア～フランス間の観光客も同じ1人としてカウントされる。外国人旅行者数だけでインバウンドの現状を評価することは、あまりにも距離的要因に対する配慮が欠けているといえる。

そこで本論では距離的な要素を考慮したインバウンド観光の評価を試みることにした。

2 ツーリスト・マイルージ

ツーリスト・マイルージとは、旅行者数に移動距離(二国間距離)を乗じた数値であり、単位は〔輸送人・km〕となる。これをインバウンド観光について算出し、その意味を検討するのが本論の目的である。たとえばA国のツーリスト・マイルージは次の式により計算される。

$$R = \sum_{x=1}^N (X国からA国への旅行者数) \times (X国からA国までの距離)$$

算出されたツーリスト・マイルージを旅行者数で除すと、その国へのインバウンド旅行者の平均的な移動距離がわかる。この数値は、その国の誘致力を示す指標とみることができる。本論では、これら観光客数、ツーリスト・マイルージ、平均移動距離をインバウンド観光3指標と呼ぶ。

3 分析の前提条件

このインバウンド・ツーリスト・マイルージを実際に計算する際、本論では次に示す前提条件の下で行ったので明記しておく。

- 分析対象国は、世界観光機関(WTO)が公表しているインバウンド旅行者数上位50カ国(2000年)から選んだ。上位50位以内にあり、発地国別のデータが公表されている39カ国を分析対象とした。

- インバウンド旅行者数のデータとしては、世界観光機関(WTO)発行の『Yearbook of Tourism Statistics 2002 Edition』の着地国別インバウンド旅行者数を使用した。なお、国ごとに統計手法が異なるため、観光客(Tourist)、来訪者(Visitor)、ホテル宿泊観光客(Tourist in Hotels)、全施設宿泊観光客(Tourist in all Type Accommodation)が混在していることをことわっておく。
- 観光統計には発地国不明データが含まれていることから、また過重な作業負荷を避けるため、集計分析の対象は上位15発地国とした。したがって、39カ国×15カ国=585の二国間ODが本論の分析対象である。分析対象となるインバウンド旅行者数は4億3,671万人であり表1、これは世界全体(6億3,344万人)の69%を占めている。
- 発地国と着地国との距離については、首都間距離(大圏コース)を便宜的に利用した。国土面積の広い国では首都の位置が偏るなどの問題があることを断っておく。首都間距離の算出には、『FLand-Ale日本世界地図英語版』(01/12/2001Yobito Kayanuma)を利用した。

表1 分析対象とした国及びインバウンド旅行者数

国名	旅行者数(人)	国名	旅行者数(人)
アイルランド	6,611,000	カナダ	18,286,500
アメリカ	42,642,785	キプロス	2,417,141
イギリス	20,427,000	ギリシャ	10,303,180
イスラエル	1,793,418	クロアチア	2,445,351
イタリア	28,762,116	シンガポール	6,543,824
インドネシア	4,530,069	スイス	6,620,177
エジプト	4,043,520	スペイン	43,324,398
オーストラリア	3,683,760	タイ	7,663,696
オーストリア	16,458,269	チェコ	3,954,364
オランダ	6,259,000	チュニジア	4,756,227
ドイツ	15,214,855	マカオ	2,519,336
トルコ	7,832,283	マレーシア	9,290,797
ノルウェー	3,931,000	メキシコ	19,762,670
ハンガリー	2,352,837	韓国	4,612,023
フィンランド	3,425,000	香港	12,018,809
ブラジル	4,695,204	台湾	2,079,785
フランス	69,668,800	中国	8,603,229
ベルギー	5,751,863	南アフリカ	5,226,247
ポーランド	2,534,732	日本	4,137,517
ポルトガル	11,531,878	総計	436,714,660

4 二国間距離とインバウンド旅行者数

分析対象データについて基本的な特性を把握しておく。まず二国間の距離であるが、長短それぞれの上位10位までを表2・3に示す。短距離ODではマカオ～香港(58km)、ヨルダン～イスラエル

表2 短距離二国間OD上位10

No	二国間距離				距離 (km)
1	マカオ	アジア	香港	アジア	58
2	ヨルダン	中東	イスラエル	中東	69
3	エストニア	欧州	フィンランド	欧州	86
4	ベルギー	欧州	オランダ	欧州	173
5	ルクセンブルグ	欧州	ベルギー	欧州	187
6	ハンガリー	欧州	オーストリア	欧州	216
7	チェコ	欧州	オーストリア	欧州	253
8	南アフリカ	アフリカ	ボツワナ	アフリカ	257
9	ベルギー	欧州	フランス	欧州	260
10	クロアチア	欧州	オーストリア	欧州	269

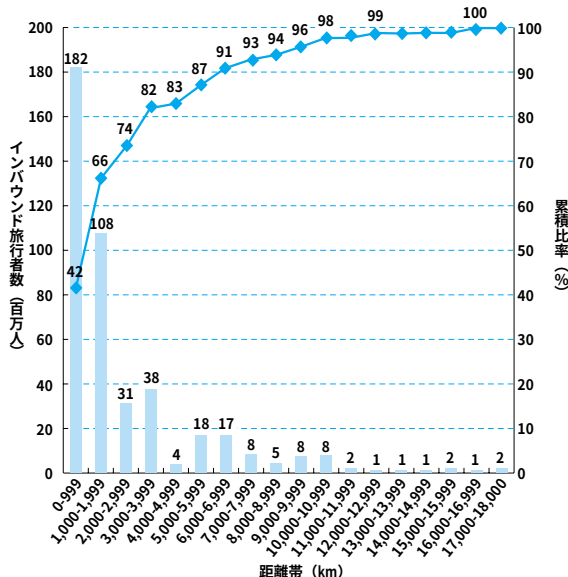
表3 長距離二国間OD上位10

No	二国間距離				距離 (km)
1	オーストラリア／ニュージーランド	大洋州	アイルランド	欧州	17,976
2	オーストラリア／ニュージーランド	大洋州	フランス	欧州	17,970
3	オーストラリア	大洋州	イギリス	欧州	17,003
4	オーストラリア	大洋州	オランダ	欧州	16,646
5	アメリカ	北米	インドネシア	アジア	16,369
6	オーストラリア	大洋州	イタリア	欧州	16,233
7	オーストラリア	大洋州	カナダ	北米	16,121
8	ドイツ	欧州	オーストラリア	大洋州	16,087
9	オーストラリア	大洋州	アメリカ	北米	15,966
10	シンガポール	アジア	アメリカ	北米	15,563

表4 OD間インバウンド旅行者数上位10

No	発地国 (O)		着地国 (D)		観光客数 (万人)
1	アメリカ	北米	メキシコ	中米	1,929
2	ドイツ	欧州	フランス	欧州	1,542
3	アメリカ	北米	カナダ	北米	1,521
4	カナダ	北米	アメリカ	北米	1,459
5	イギリス	欧州	スペイン	欧州	1,324
6	イギリス／アイルランド	欧州	フランス	欧州	1,213
7	オランダ	欧州	フランス	欧州	1,182
8	ドイツ	欧州	スペイン	欧州	1,117
9	メキシコ	中米	アメリカ	北米	1,032
10	ドイツ	欧州	オーストリア	欧州	999

図1 距離帯別インバウンド旅行者数



(69km)、エストニア～フィンランド(86km)が100km未満である。一方、長距離ODではオーストラリア／ニュージーランド～アイルランド(17,976km)をはじめとしてオーストラリアへの旅行距離がきわめて長い。

次にOD間インバウンド旅行者数の上位10位を表4に示す。旅行者数が最も多いODは、アメリカ発メキシコ着ODでおおよそ1,900万人である。以下、ドイツ発フランス着OD(1,542万人)、アメリカ発カナダ着OD(1,521万人)等となっている。

図1は距離帯別インバウンド旅行者数を示している。インバウンド旅行者数の42%は移動距離999km以下で占められている。1,999km以下で累積比率は66%に達し、6,999km以下で90%を超える。一方、最も長い距離帯である17,000km～18,000kmでの旅行者数はおよそ200万人にとどまっている。

2. インバウンド観光3指標による国際比較

1 分析対象39カ国の順位

分析対象39カ国についてツーリスト・マイレージと平均移動距離を計算し、3指標毎に順位づけした結果が表5である(数値は文末付図参照)。各指標の1位は、旅行者数でフランス、ツーリスト・マイレージでアメリカ、平均移動距離でオーストラリアとなった。

表中、フランスとイスラエルに着目すると興味深い。旅行者数1位のフランスは平均移動距離では33位となるのに対し、イスラエルは旅行者数では39位だが平均移動距離では2位となる。

日本は、旅行者数では27位、ツーリスト・マイレージでは18位、平均移動距離では9位となる。

2 仏米豪の比較

各指標で1位となった仏米豪について検討を試みる。各国の3指標は表6のとおりである。また、3指標の基準値(サンプルデータと平均値との差を標準偏差で除した値)を図2に示す。

旅行者数で1位のフランスは、ツーリスト・マイレージでは2位、平均移動距離では33位となる。ツーリスト・マイレージ1位のアメリカは、旅行者数では3位、平均移動距離では8位である。平均移動距離1位のオーストラリアは、ツーリスト・マイレージ

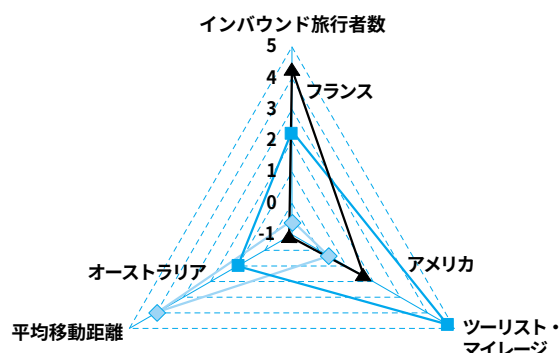
表5 インバウンド観光3指標による国際比較

順位	旅行者数	ツーリスト・マイレージ	平均移動距離
1位	フランス	アメリカ	オーストラリア
2位	スペイン	フランス	イスラエル
3位	アメリカ	イタリア	シンガポール
4位	イタリア	スペイン	タイ
5位	イギリス	メキシコ	台湾
6位	メキシコ	イギリス	中国
7位	カナダ	香港	ブラジル
8位	オーストラリア	オーストラリア	アメリカ
9位	ドイツ	中国	日本
10位	香港	タイ	インドネシア
11位	ポルトガル	ドイツ	香港
12位	ギリシャ	カナダ	メキシコ
13位	マレーシア	シンガポール	韓国
14位	中国	ギリシャ	キプロス
15位	トルコ	ブラジル	イタリア
16位	タイ	インドネシア	イギリス
17位	スイス	オーストラリア	エジプト
18位	アイルランド	日本	スイス
19位	シンガポール	マレーシア	ドイツ
20位	オランダ	トルコ	トルコ
21位	ベルギー	スイス	ギリシャ
22位	南アフリカ	ポルトガル	オランダ
23位	チュニジア	韓国	マレーシア
24位	ブラジル	オランダ	南アフリカ
25位	韓国	アイルランド	カナダ
26位	インドネシア	エジプト	アイルランド
27位	日本	南アフリカ	スペイン
28位	エジプト	台湾	ハンガリー
29位	チェコ	イスラエル	ノルウェー
30位	ノルウェー	キプロス	ポルトガル
31位	オーストラリア	ノルウェー	ポーランド
32位	フィンランド	ベルギー	フィンランド
33位	ポーランド	チュニジア	フランス
34位	マカオ	チェコ	チュニジア
35位	クロアチア	フィンランド	チェコ
36位	キプロス	ハンガリー	マカオ
37位	ハンガリー	ポーランド	オーストラリア
38位	台湾	マカオ	ベルギー
39位	イスラエル	クロアチア	クロアチア

表6 仏米豪の3指標

	仏	米	豪
インバウンド旅行者数	6,967万人 1位	4,264万人 3位	368万人 31位
ツーリスト・マイレージ	835億人・km 2位	1,863億人・km 1位	699億人・km 8位
平均移動距離	1,199km 33位	4,369km 8位	9,209km 1位

図2 仏米豪の3指標（基準値）



では8位、旅行者数では31位となる。

仏米豪いずれもツーリスト・マイレージでは10位以内に位置している。大きな違いが現れるのは旅行者数と平均移動距離である。フランスは旅行者数が多い反面、平均移動距離が短い。逆にオーストラリアは旅行者数は比較的に少ないものの、平均移動距離は9,000kmを超えている。アメリカは、フランスとオーストラリア双方の性格を合わせ持っていると考えることができる。

これらのことを具体的なデータで検証するため仏米豪3カ国の距離帯別インバウンド旅行者数を

図3 距離帯別インバウンド旅行者数（フランス）

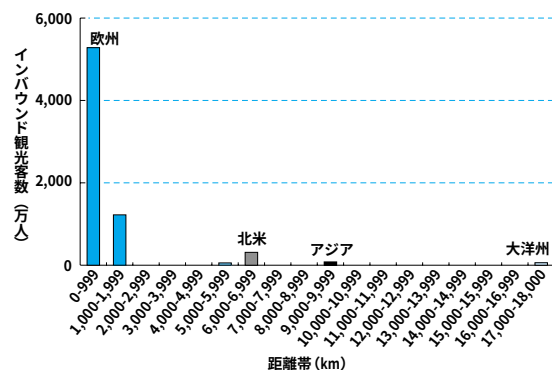


図4 距離帯別インバウンド旅行者数（アメリカ）

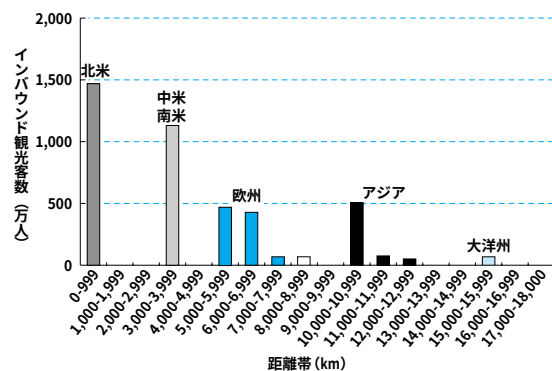
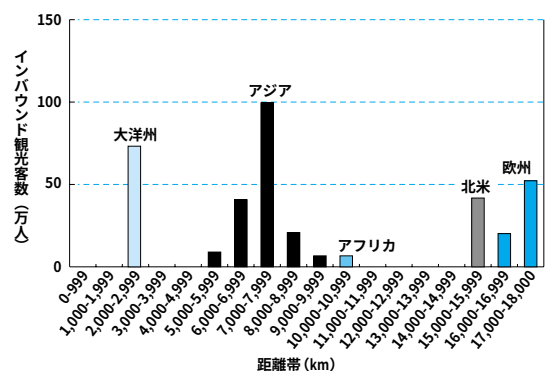


図5 距離帯別インバウンド旅行者数（オーストラリア）



示す。フランスは近距離圏である欧州からの旅行者数が圧倒的に多い(図3)。遠距離圏からも誘客しているが、全体の中における比率は低い。アメリカの場合には近距離圏の北米(具体的にはカナダ)、中距離圏の中南米や欧州、遠距離圏のアジアや大洋州と、多様な距離帯から万遍なく旅行者を誘致しているのが特徴であるといえる(図4)。オーストラリアは島国であるため2,000km圏内には市場国がない(図5)。最も近い市場は大洋州である。中距離圏にアジアがあり、遠距離圏に北米や欧州がある。フランスやアメリカに比べて旅行者数は一ケタ少ないものの、遠距離圏からの誘客比率がとて高い。

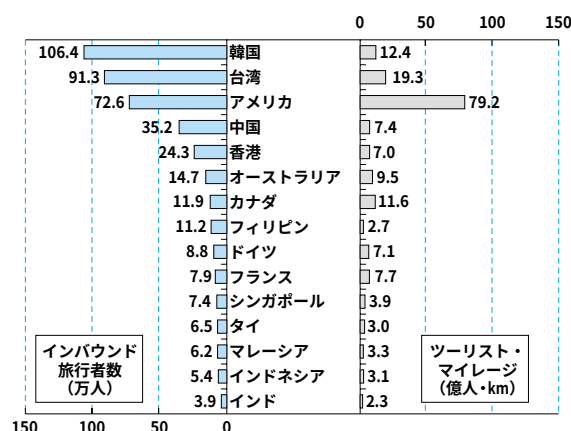
3. 我が国のツーリスト・マイレージ

1 日本のインバウンド観光3指標

分析対象39カ国中における我が国のインバウンド観光3指標の順位は、旅行者数で27位、ツーリスト・マイレージで18位、平均移動距離で9位となる(表5)。日本はオーストラリアと同様に、距離的要素を含む指標において順位が上昇する。これは近距離圏市場にあまり恵まれない国々に共通の特徴と考えることができ、イスラエル、シンガポール、タイ、台湾等が該当する。一方、これと逆の傾向を示すのが先述したフランスやスペイン、イギリス、オーストリア等の欧州諸国である。

次に発地国別にみると旅行者数では韓国、台湾、中国などアジア諸国が目立つ。一方、ツーリスト・マイレージでみるとアメリカの数値が飛び抜けて大きくなる(図6)。

図6 発地国別の旅行者数とツーリストマイレージ



2 日英の比較

大陸の近隣にある島国として立地条件が比較的に相似している日英を比較する。イギリスのインバウンド観光3指標の順位は、表7のとおり旅行者数で5位、ツーリスト・マイレージで6位、平均移動距離で16位である。日本とは逆に、距離的要素を含む指標ほど順位が下がる。地理的条件は似ているが、インバウンド観光の特徴は相反している(図7)。

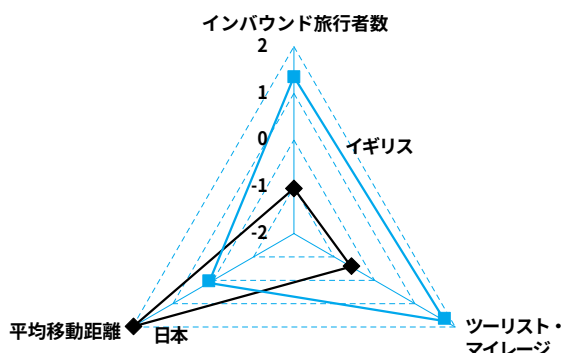
具体的な検討のため、日英の距離帯別の旅行者数を図8・9に示す。イギリスは、近距離圏の欧州からの旅行者数がきわめて多い。同時に中距離圏の北米、遠距離圏の大洋州からの誘客もみられる。日本は近距離圏のアジアと中距離圏の北米から誘客しているものの、遠距離市場には弱いといえる。

日英の相違点として目立つのは近距離圏からの誘客数の差である。イギリスにおける近距離圏からの旅行者数は日本に比べてとても多い。この理由のひとつは地理的条件である。ロンドン～パリ間が約350kmであるのに対し、東京～ソウル間は約1,160kmである。もう一つの理由は国際政治的環境の差である。日本と中国大陸との国際的な政治環境は、イギリスと欧州大陸間のそれとは大きく異なっていた。日韓あるいは日中間には国交のない時期が戦後しばらく続いたのに対し、イギリスと西側欧州諸国との交流は冷戦下においても確保されていた。

表7 日英のインバウンド観光3指標

	イギリス	日本
インバウンド旅行者数	2,043万人 5位	414万人 27位
ツーリスト・マイレージ	570億人・km 6位	179億人・km 18位
平均移動距離	2,789km 16位	4,335km 9位

図7 日英の3指標(基準値)



今後、日本のインバウンド観光をイギリス並みに振興していくとすれば、近距離圏であるアジア市場からの誘客を飛躍的に増加させることが一つの戦略だと考えられる。このことはアジア諸国の経済発展や中国政府の自由化政策によって現実性が高まっている。

図8 距離帯別インバウンド旅行者数(イギリス)

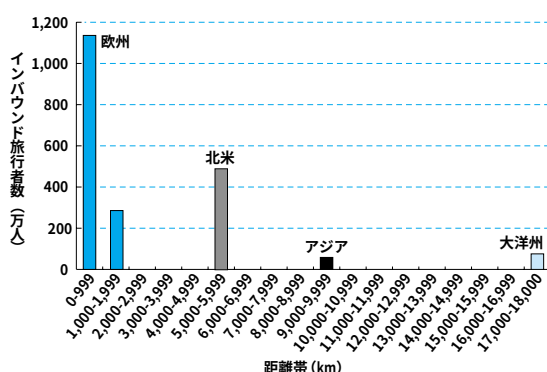


図9 距離帯別インバウンド旅行者数(日本)

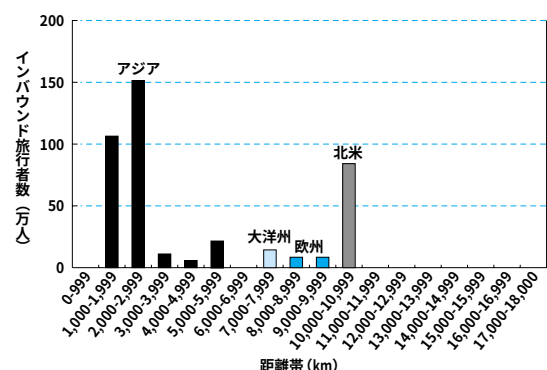
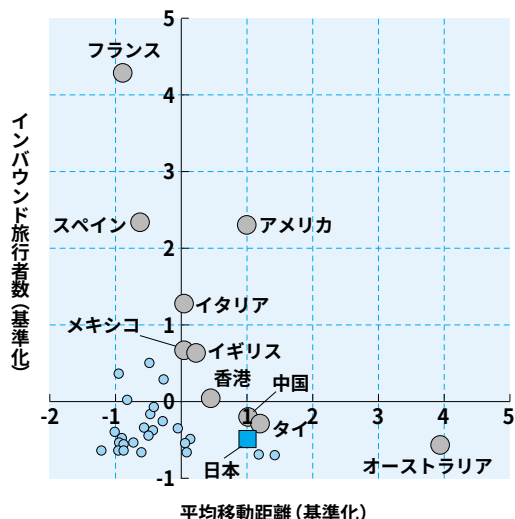


図10 基準値による散布図



3 日本のポジショニング

インバウンド観光3指標を基準化し、旅行者数と平均移動距離の平面上に対象39カ国をプロットしたものが図10である。図中、大きい●印の国々はツーリスト・マイレージ上位10カ国である。

ツーリスト・マイレージ上位国は、観光客数に優れたフランス型、平均移動距離に優れたオーストラリア型、双方に優れたアメリカ型という3タイプに分けて考えることができる。そして、日本のポジションは図中に示すとおりである。

4. 結論

本論では、世界各国のインバウンド観光を距離的な要因を加味することにより再評価を試みた。そのための具体的な指標としてツーリスト・マイレージを試算した。一定の前提条件の下に行った試算ではあるが、旅行者数、ツーリスト・マイレージ、平均移動距離からなるインバウンド観光3指標による再評価を分析対象39カ国について行い、それぞれの指標の意味について検討を加えた。それらは次のようにまとめることができる。

- 旅行者数は、インバウンド観光の状況を計る最も基本的な指標である。しかし、距離的要素が反映されないため、欧州のような地理的条件(高所得国が国境を接する)の国々に有利な指標と思われる。
- 旅行者数、ツーリスト・マイレージ、平均移動距離という3指標で各国のインバウンド観光を見直すと、旅行者数だけでは浮かび上がってこない各国の誘致特性が明らかとなった。
- ツーリスト・マイレージは近距離圏から遠距離圏まで多様な距離帯から旅行者を誘致している国において高くなる。旅行者数と距離の両面で優れた国が上位にランクされる。
- 平均移動距離もその国の誘致力を表していると考えられる。遠距離圏からの誘客比率の高い国がこの指標により浮かび上がる。旅行者数の上位国とは異なる国が上位に現れてくるのが特徴である。
- 日本は、旅行者数で見ると分析対象国中の下位グループであるが、ツーリスト・マイレージや平均移動距離で見ると順位が高まる。つまり、遠距

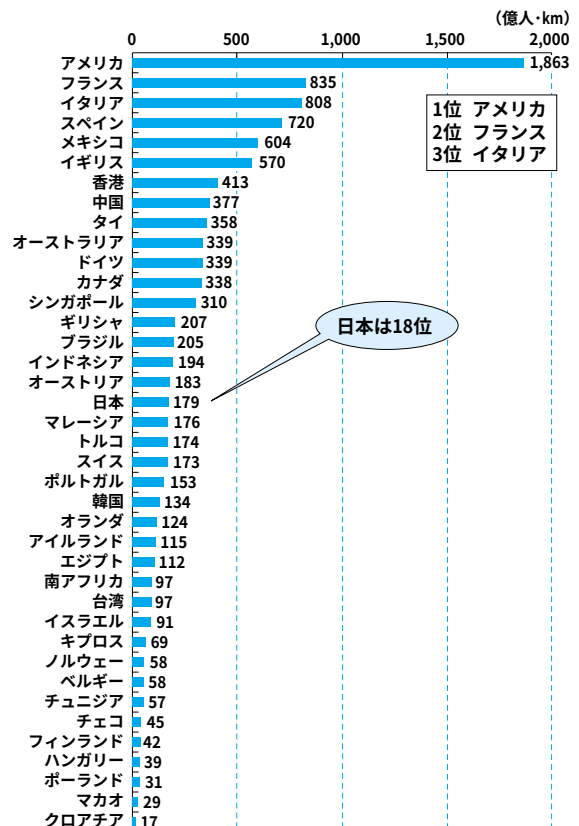
離圏からの誘致比率が比較的に高いといえる。

- 日本のインバウンド観光がアウトバウンド観光に比べてあまり振るわなかったのは、島国という地理的条件に加えて政治的な条件によるところもあったと考えられる。今後、アジア諸国との関係改善によって大きく成長する可能性があると思われる。
- 本論の分析は先述のとおり一定の条件下で行ったものである。そのため分析対象国数の少なさや精度上の課題が残る。

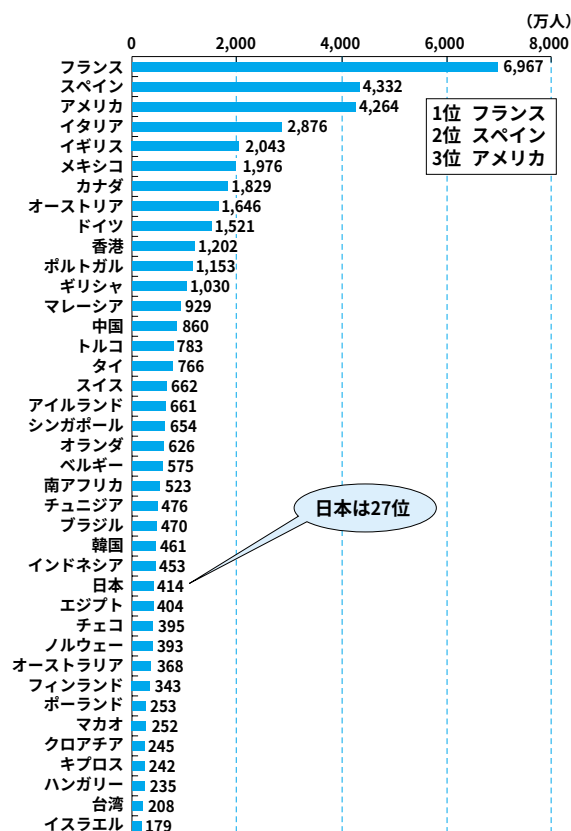
【参考資料】

- 1) 『フード・マイレージの試算について』中田哲也，農林水産政策研究所レビューNO.2
- 2) 『Yearbook of Tourism Statistics 2002 Edition』WTO

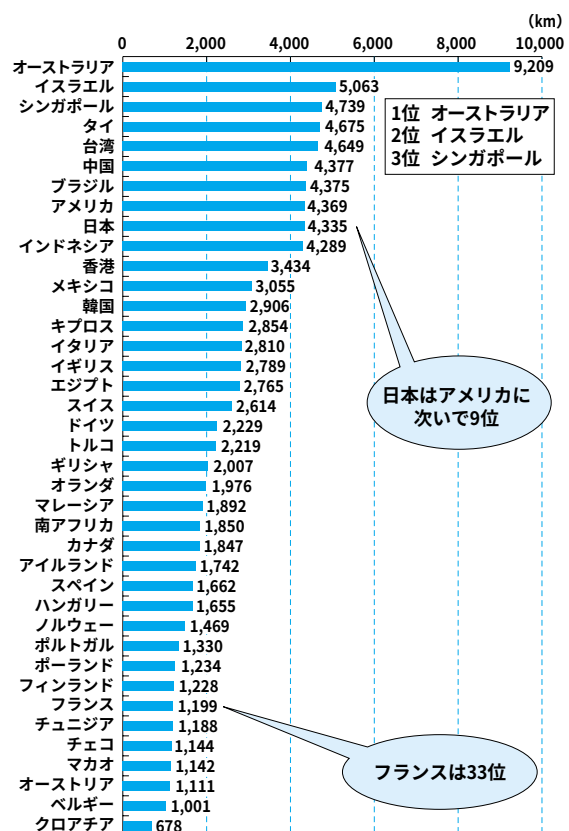
付図2 ツーリスト・マイレージ



付図1 インバウンド旅行者数



付図3 平均移動距離



付図4 主要国のレーダーチャート

